

飲水思源

町長 松岡市郎

地方創生で「ねえ」ものを生かそう！

今から30年ほど前のことである。歌手、吉幾三さんの楽曲、「俺ら東京さ行くだ」が大ヒットした。「テレビもねえ、ラジオもねえ、自動車もそれほど走ってねえ」、俺らこんな村いやだ、東京へ出るだ、東京へ出だなら銭こ貯めて東京でペコ(牛)飼うだ」と若者が東京へと流れ出る歌詞である。夢は東京でサラリーマンになることではなく、牛を飼い、馬車を引き、銀座で山を買うこと。大きな夢が描かれてもいた。

昭和30年代後半ごろから農村から若者が都市へと流れ、大都市で暮らすことが理想となった。高度成長時代を迎え、日本は豊かな暮らしが実現していったのである。東京は理想郷だった。東京の経済力は農村からの若者の力が支えていたのである。その反動で農村は過疎化が進行し、人が消え、学校がなくなり、「なんにもねえ」となり、大きな問題となっていった。

昭和60年代初め、国は過疎と過密の格差解消、東京等の大都市集中を是正しようとする多極分散型国家形成法という法律まで制定して取り組んできたが、法の目的とする社会の実現には至らず、反して東

京一極集中化が進行した。なぜ法の趣旨を実現できなかったのか、その反省点はまったく聞かされていない。そんな中、ここでは地域創生法なる法律が制定された。地方の力を生かして個性と責任ある地域づくりを行ってほしい、と地方の主体性を強調している。法律があるかないかは別にして、今地方の活性化は現実として大きな課題となっている。

「水道ない、国道ない、鉄道ない」。3つの道がない。僕も私もこんな町大好きだ。東川へ行って農業、家具クラフト業、観光サービス業やろう。さあ、東川へヨシ、イクゾウ！」

東川にはスカイツリーはないが大雪山旭岳があり、高層ビルはないが整然として水田がある。「おいしい水 うまい空気 豊かな大地」もしっかりである。お互いに顔が見えて、会話ができて、未来を考える余白があることは最高にぜいたくなことだ。そして夢のある暮らしがある。

東京には「ねえ」ことが東川の価値でもある。写真文化首都とは「東京にないもの」を誇りとして、大切なものや心を次代へ伝えて行く文化の中心でもある。やっぱり東川はいいなあ。

サラバ! (上、下)

西 加奈子: 著 小学館: 刊



主人公の歩は父親の赴任先、イランで生まれた。幼少期をエジプトで過ごし、その後日本へ帰国して高校生となる。強烈な個性ゆえに奇行に走る姉。その姉に手を焼きつつも姉の向こうを張る気の強さと自由奔放さを持ち合わせる母。歩はそんな二人に振り回され、幼いうちから大人にならざるを得なかった。文中に淡々と流れる語り口の中に歩の苦悩が…。第152回直木賞受賞作。

ホビット 竜に奪われた王国 (映画)

ワーナー・ホーム・ビデオ



ホビットのビルボ、魔法使いガンダルフ、そしてトールン率いる13人のドワーフたちがドワーフ王国を取り戻す旅がさらに続く。彼らは道中で「中つ国(なかつくに)」のさまざまな住人に遭遇する。熊に変身するピョルン、闇の森に巣食う巨大グモ、スランドゥイル王率いる闇の森のエルフたち…。そして長い旅路の末に、最大の敵・竜の“スマウグ”が待ち構えていた。(161分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



偽りの王子 (児童書)

ジェニファー・A・ニールセン: 著 ほるぷ出版: 刊



孤児院で暮らす少年セージは、ある日コナーという貴族に買われ、屋敷に連れていかれた。男の狙いは、行方不明になっている王子として孤児を仕立て、カーシア国の王座を奪うことだった。集まった4人の中から選ばれるのはただひとり。選ばれない時は口封じのため殺される。生き延びなければ偽りの王子に選ばれるしかないのだ。3部作の第1巻。